



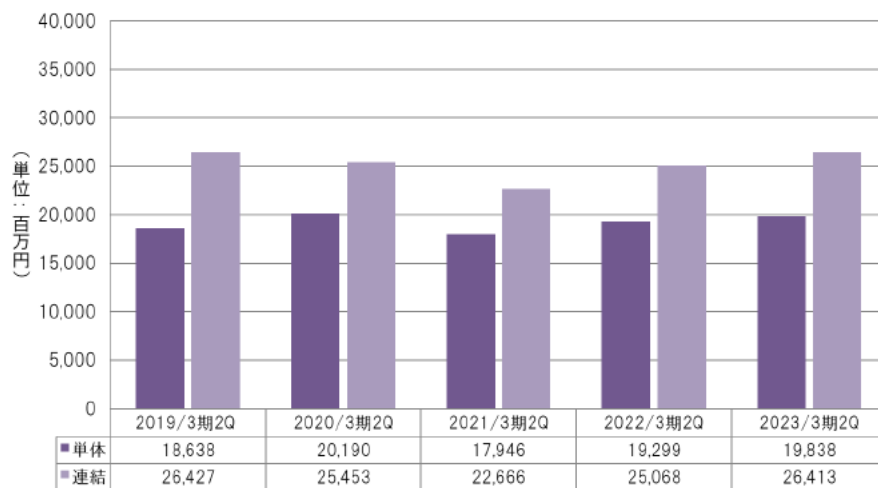
2023年3月期 第2四半期 決算説明会資料

2022年11月10日 テレフォンカンファレンス
アリアケジャパン株式会社（証券コード2815）

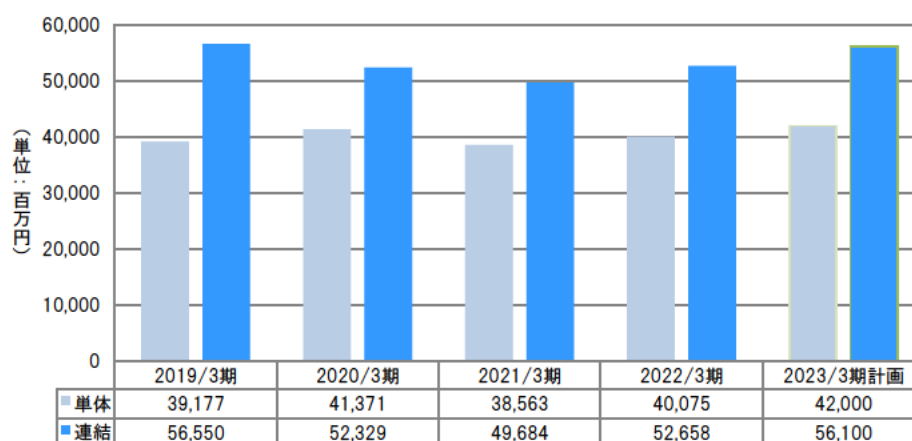
目 次

02 売上高の推移（単体・連結）	16 今後の事業計画 1（連結・単体）
04 営業利益の推移（単体・連結）	17-19 今後の事業計画 2（アリアケジャパン）
06 経常利益の推移（単体・連結）	20-28 今後の事業計画 3（海外）
08 純利益の推移（単体・連結）	29 サステナビリティへの取組
10 第2四半期 売上高（対前年実績）	30 事業活動とサステナビリティの調和
11 第2四半期 営業利益（対前年実績）	31 太陽光発電システム導入による脱炭素化の推進
12 第2四半期 単体業績の概要（利益変動要因）	32 サステナビリティへ取組事例
13 第2四半期 主要子会社の概要	〔補足資料〕 決算のポイント
14 設備投資の推移（連結・単体）	
15 減価償却費の推移（連結・単体）	

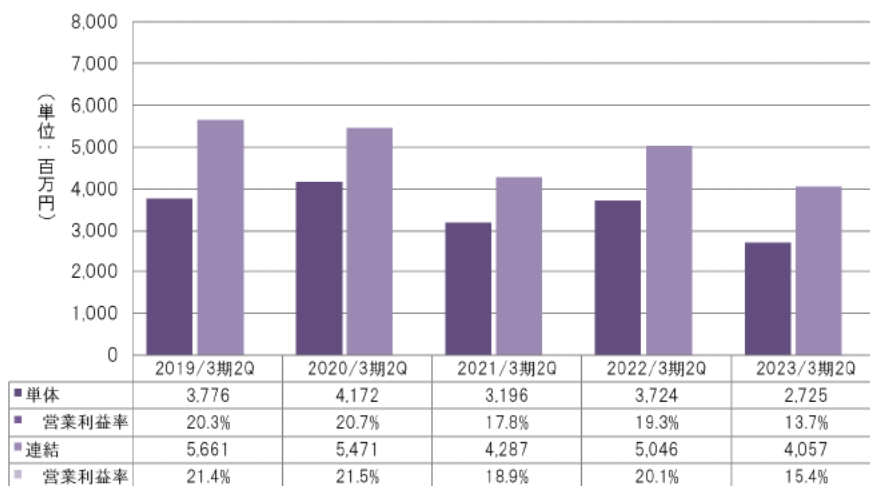
第2四半期 売上高推移 (単体・連結)



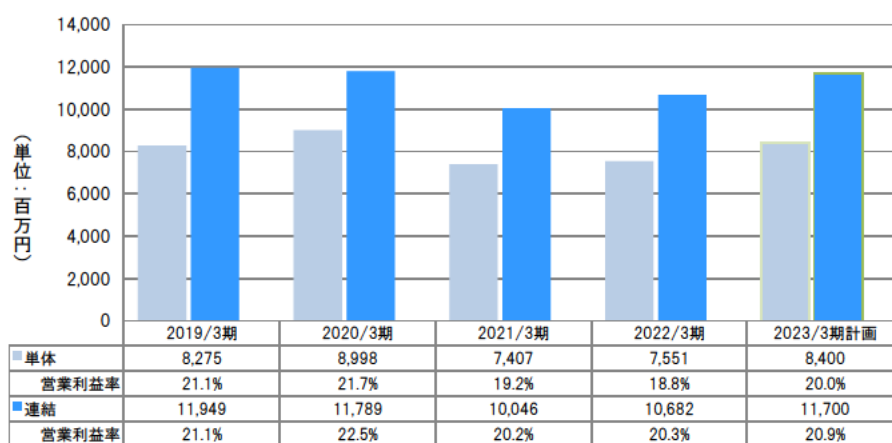
通期 売上高推移 (単体・連結)



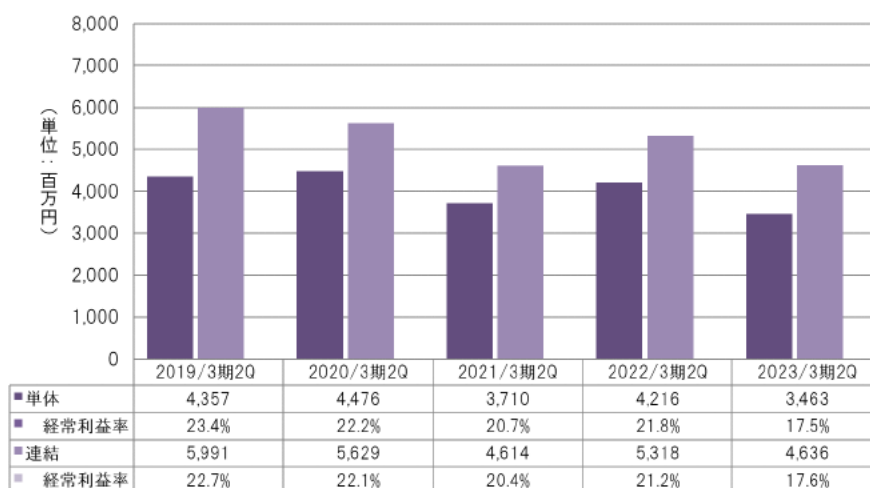
第2四半期 営業利益の推移（単体・連結）



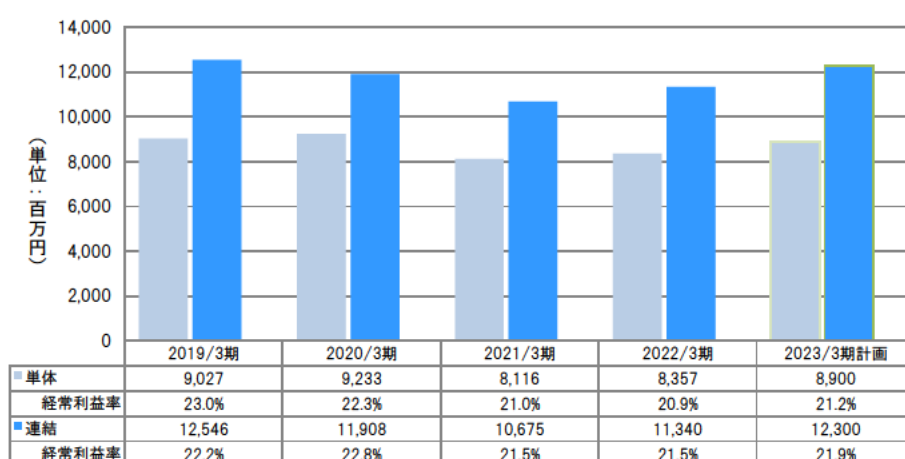
通期 営業利益の推移（単体・連結）



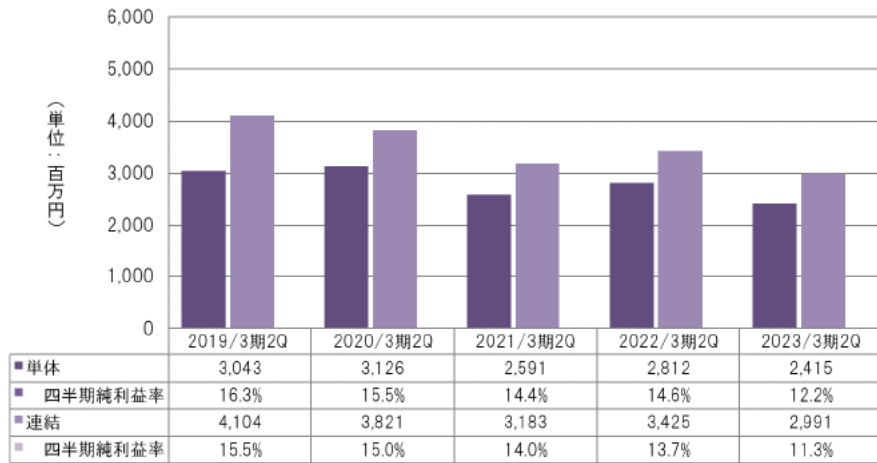
第2四半期 経常利益の推移（単体・連結）



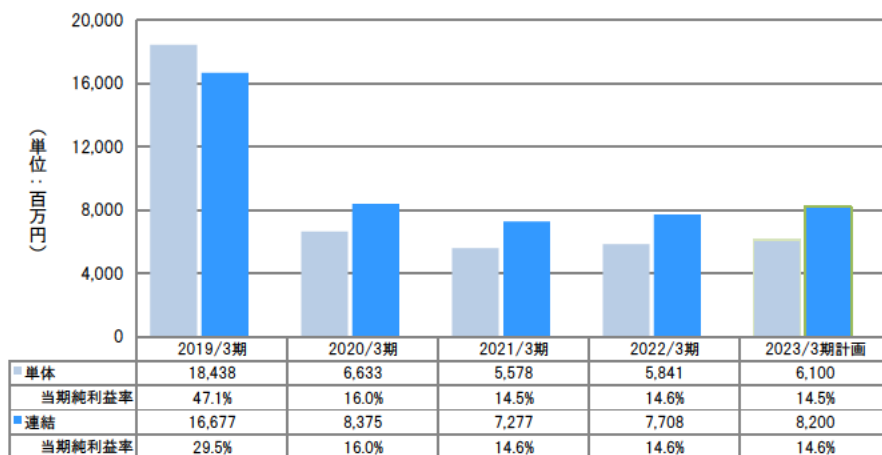
通期 経常利益の推移（単体・連結）



第2四半期 親会社株主に帰属する 四半期純利益の推移（単体・連結）



通期 親会社株主に帰属する 当期純利益の推移（単体・連結）



第2四半期 売上高 (対前年実績)

※子会社は連結調整後

(単位:億円)

	2023/3期 2Q	2022/3期 2Q	増 減		為替中立
アリアケジャパン	198.4	193.0	5.4	2.8%	2.8%
子会社 計 ※	65.7	57.7	8.0	14.0%	-0.2%
ア ジ ア	41.6	36.7	4.9	13.4%	-4.1%
欧 州	22.7	19.6	3.1	16.3%	6.9%
日 本	1.4	1.4	0.0	0.0%	0.0%
連結	264.1	250.7	13.4	5.4%	2.1%

(括弧は計画レート)

EUR(130.00)	142.67	131.58	11.09
人民元(18.00)	20.38	17.11	3.27
台湾ドル(4.00)	4.60	3.96	0.64
ルピア(0.008)	0.0092	0.0077	0.0015

第2四半期 営業利益 (対前年実績)

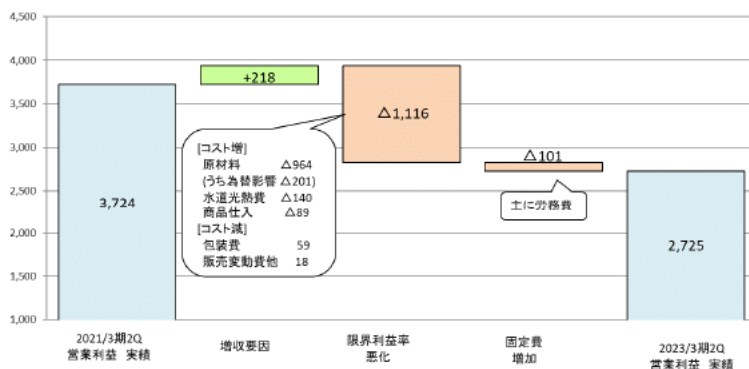
※子会社は連結調整後

(単位:億円)

	2023/3期 2Q	2022/3期 2Q	増 減		為替中立
アリアケジャパン	27.3	37.2	△ 9.9	-26.8%	-26.8%
子会社 計 ※	13.3	13.3	0.0	0.0%	-12.6%
ア ジ ア	9.9	9.0	0.9	10.0%	-6.3%
欧 州	3.3	4.2	△ 0.9	-21.4%	-26.6%
日 本	0.1	0.1	0.0	0.0%	0.0%
連結	40.6	50.5	△ 9.9	-19.6%	-23.1%

第2四半期 単体業績の概要（利益変動要因）

■ 営業利益 2,725百万円 前年比△999百万円（△26.8%）（単位：百万円）



■ 経常利益 3,463百万円 前年比△753百万円（△17.9%）

（単位：百万円）

増加要因	為替差益	206
	受取配当金等	40
減少要因	営業利益減少	△ 999
	合計	△ 753

第2四半期 主要子会社の概要

（1月～6月、為替中立ベース）

アジア

【中国】4月～6月は上海ロックダウンの影響を受け6月累計で減収減益。

【台湾】4月～6月も回復基調、6月累計で増収増益。

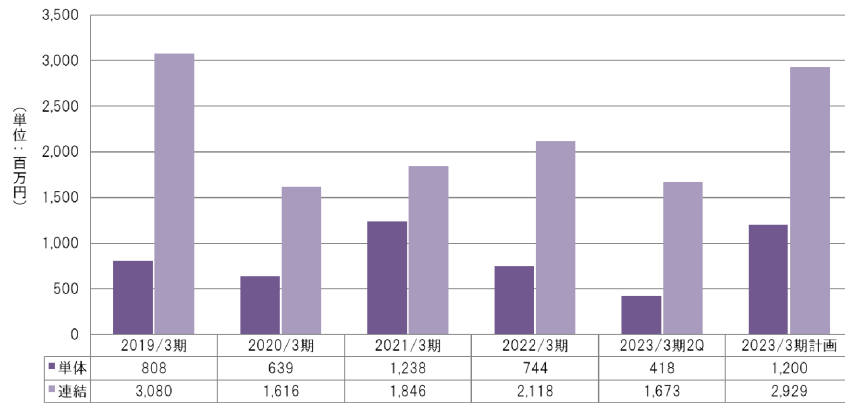
【インドネシア】日本向け輸出及び同国内販売も増加基調、6月累計で増収増益。

欧州

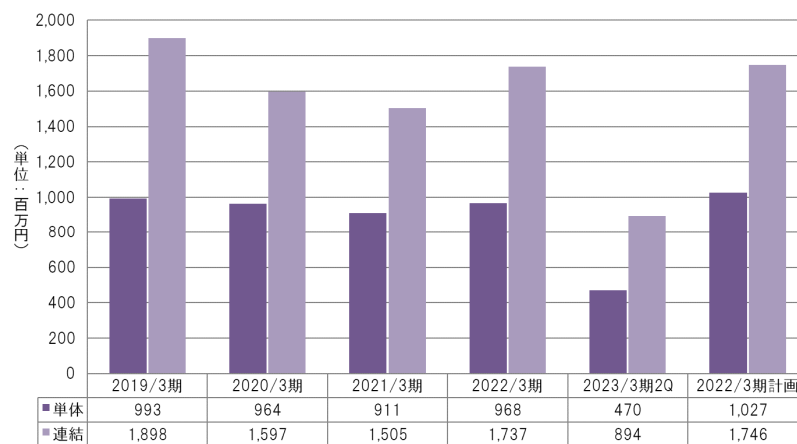
・4月～6月は「コロナ明け」が更に寄与し売上は引続き堅調に推移し、ベルギー・フランス・オランダの3拠点連携により6月累計で増収。

・主に原材料、包材、エネルギーの高騰により6月累計で減益。

設備投資の推移（連結・単体）



減価償却費の推移（連結・単体）



今後の事業計画[1] (連結・単体 概要)

□ 連結

3年後の2025年3月期の連結売上高は632億円+を視野に入れ（海外売上高比率30%+）、営業利益率20%+確保を目指します。

持続的成長を狙える市場に対して、更なる経営資源の投入を図って参ります。

長期的には後述の販売戦略を実行し、2030年には国内500億円、海外500億円の合計1000億円の売上達成を目指します。

□ 単体（アリアケジャパン）

国内市場での嗜好や業態の変化を読み取り、新たな製品開発（大豆や野菜ベース等）と市場開拓（流通、EC等想定B2C製品）を行い、さらなるシェア・アップを図ってまいります。

今後の事業計画[2] (アリアケジャパン①)

□ 中長期計画

- 2022年度420億円を起点に毎年度10億円の売上増を図り、2030年には、500億円の売上達成を目指しております。
- 既存カテゴリについては、製法・製品のブラッシュアップ、提案営業・B4B推進により、売上増を図ります。2030年時450億円の売上を目指します。
- 新規カテゴリとして、大豆や野菜を原料としたプラントベースの製品及び従来の業務用・加工用の枠組みを脱したB2C製品の開発と拡販を行います。
- 2030年500億円達成時、プラントベース製品群25億円、B2C製品群25億円の売上を目指しています。

今後の事業計画[2] (アリアケジャパン②)

□ プラントベース製品

- 健康と環境意識の観点から、プラントベースの食品が注目され、その市場規模は2035年には世界で38兆円と言われており有望な市場です。
- 事業の持続的発展のため、有限かつ環境負荷の大きい畜産系以外の原料を使用した製品（一部代替も含め）による事業活動を構築する必要があります。
- 畜産系原料不使用にすることで、これまで輸出が困難であった国への輸出が可能になります。
- 今期新たに大豆ベースの製品を開発・投入し、ベース素材、調味料、完成品スープ・ソース等が採用されました。

今後の事業計画[2] (アリアケジャパン③)

□ B2C戦略

- B2C展開することで、顧客の販売動向や商品政策に左右されない市場を自ら造ることが可能になります。
- 当社はすでに2021年売上ベースで年間約40億円のB2C製品を製造し販売しております。商品形態は、パウチ、缶詰、カップ、チューブ、紙パック、個袋など多岐にわたります。
- B2C製品を開発・製造するノウハウは十分にあります。しかし、現在はほぼすべてが顧客ブランドを冠したOEM製品です。今後は自社ブランド品の販売によるブランド確立を目指し、当社の強みを生かせるB2C製品の企画・開発・販売を推進します。

今後の事業計画[3] (海外① ベルギー)

□UHTストレートブイオンによるB2C戦略

- ベルギー工場内に25億円を投じ、UHT設備新設及び抽出設備増設を進行中です。2023年初から稼働開始の見込みです。
- この設備により、100%天然の高品質のUHTストレートチキンブイオンを製造しフランス国内にて家庭用を中心に販売します。
- UHTストレートブイオンは、既に米国で約2000億円、スペインで約200億円、イタリアで約40億円の市場があります。
人口比（フランス6500万人、イタリア6000万人、スペイン4700万人）から、フランスでは250億円の市場規模が見込めます。
- 拡販手段として、フランスの有名シェフの商標を使用し、最大手スーパーとの販売交渉を進行中です。チキンブイオンはフランスでは料理のベースとして幅広く使用され確実に売上に繋がると予測しています。また、家庭用だけでなく、フードサービスへの展開も併行して行います。
- UHTブイオンを中心とした販売戦略により2030年には約100億円の売上を目指しております。

今後の事業計画[3] (海外① ベルギー)

□UHTストレートブイオンの製造

UHTストレートブイオン用として、新たな抽出方法を確立しました。

製品は、オールラウンドのクリアブイオンと煮込み料理に向けたクラウディブイオンの2タイプを用意します。

また、副生物のストックやミートはフランス工場のスプレードライヤーで乾燥し製品化します。残渣の処理費用削減と原材料費低減により大幅な利益改善となります。



clear



cloudy



今後の事業計画[3] (海外① ベルギー)

□工事の進捗状況 (UHT用抽出設備)

抽出槽



抽出液受槽



ARIAKE JAPAN CO.,LTD.

濃縮器



22

今後の事業計画[3] (海外① ベルギー)

□工事の進捗状況 (UHT)

UHT (全体)



充填機



ARIAKE JAPAN CO.,LTD.

殺菌機



自動製函機



バラライザー



23

今後の事業計画[3] (海外②フランス)

□スプレードライによるインダストリー向け粉末製品販売

- 欧州のブイオン、ストック調味料は粉末形態が主流になります。これまでの液体に加え新たに粉末の製造販売を行います。当社の優位性である抽出から乾燥までの一貫生産を行うことで効率的な生産が可能です。
- 設備投資8億円を行い、スプレードライヤー及び建屋の建設を進め、2022年末には完成予定です。約100t/月の生産能力があり売上高は10億円/年を見込んでおります。
- スプレードライヤーでは、ストックパウダー、ミートパウダーなどを乾燥し、欧州圏のインダストリー向けを中心に販売を行います。フランス工場のブイオン、ストックやベルギー工場のUHT用抽出品の副生物も原料として使用するので、市場（顧客）の用途に応じた製品の製造が可能であり、顧客のコストメリットにも貢献できると思われまます。
- スプレードライ品をベースにしたブレンドパウダー品の生産も行います。それらを合わせて2030年には現在の約2.5倍の40億円の売上を目指しております。

今後の事業計画[3] (海外② フランス)

□工事の進捗状況

原液配合設備



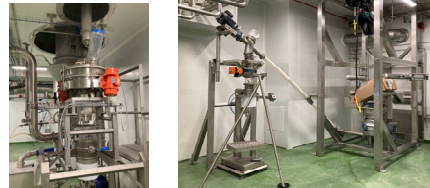
本体チャンバー上下



スプレードライヤー建屋



ろ過及び充填設備



今後の事業計画[3] (海外③中国)

□新工場の建設

中国の日照市の工業団地53,000㎡取得、2023年に新工場の建設及び設備施工し2024年からの操業を目指してまいります。総投資額は50～60億円、最終的な生産能力は250億円程度を想定しております。

新工場は中国における労務費の上昇と少子化を念頭に、これまで蓄積した経験と最新技術を基に先進的な自動化工場とし、生産性を飛躍的に向上させます。

□販売戦略

当面は現在の主要顧客である外食、加工メーカー、CVSを中心に売上増を図ります。新工場では、消費者向け最終製品の製造が可能なラインを設置し、天然調味料をベースにした調理加工品を製造する予定です。従来の調味料原料から家庭用商品の市場を拡大し、アリアケのブランド確立を目指します。

□成長戦略

当社の市場予測では、今後も中国市場の拡大は大いに期待でき、2026年度には100億円、2030年には250億円の売上を目指しております。

今後の事業計画[3] (海外④台湾・インドネシア)

□台湾

- 既存顧客が外食中心のため、加工食品メーカー（即席麺、CVS、ベンダー、消費者向け最終製品製造メーカーなど）や健康食品メーカーへの営業強化中です。
- 日本式の提案営業を採用することにより、顧客要望事項の実現と顧客が気づいていない新たな関連商品の提案を行います。この事により、商品の幅を広げると同時に将来的なスプレードライヤーや具材入充填包装機の採用を検討中です。また、技術面では日本のR&Dに台湾専用スタッフを設け、課題を共有する組織を作りました。

□インドネシア

- 日本への原料供給と同国市場の販売強化中です。今後はASEAN各域での商圏拡大を目指してまいります。
- 国内では、新たにチキンミートパウダー（ハラール仕様）が採用され、拡販が進み国内売上が前年の約2倍以上になりました。
- 国内に加え、シンガポール、フィリピンなどASEAN各域の加工食品メーカー、外食への販売が増加し、日本向けを除く売上が全体の30%まで成長してきました。
- 国際食品安全イニシアチブであるBRC認証を取得しました。（2022年6月）

今後の事業計画[3] (海外⑤米国)

□米国市場への再進出

米国市場には2024年以降新たな投資が可能になります。
東海岸バージニア州をメインに、候補地を選出中です。
米国では主にB2C製品中心での販売展開を検討しています。

□プラントベース

米国ではノンアニマル、プラントベースの需要が伸びており、その市場は1兆円とも言われております。
現在国内で進行中のプラントベースの新規カテゴリー製品は米国での展開も視野に入れて取り組んでおります。

□調理加工品

もう一つの柱となるのが、消費者向け最終製品（調理加工品）の製造です。
国内で培った、CVS向けビーフシチュー、カレーなどの生産技術をさらに進化させ、利便性を向上させ、かつ品質に優れた製品を製造・販売する計画です。
現在国内で開発を進めております。

サステナビリティへの取組

□サステナビリティ経営の推進

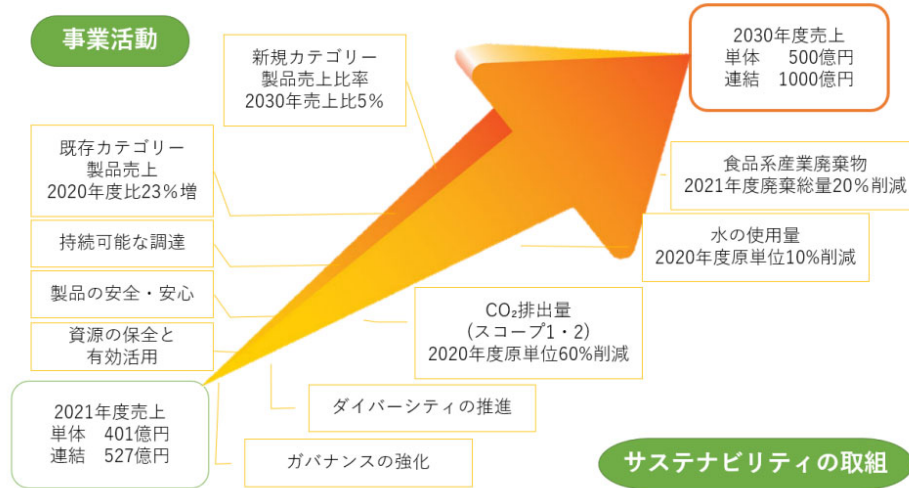
サステナビリティ経営戦略の策定（基本方針、ビジョン、経営方針）、サステナビリティ委員会の設置、マテリアリティ（重要課題）の特定プロセスの整備、マテリアリティの特定及び主要な取組指標KPIの設定などを行い、具体的な取組み事例とともに、当社ホームページ上に公開致しました。

□環境価値向上への取組

当社は、地球温暖化対策の一環である脱炭素に積極的に取り組み、2021年4月から国内生産工場で使用する全電力について再生可能エネルギーに切り替えた他、LNG気化器の蒸気式から空温式への変更、空調設備の省エネ改善、ボイラー排熱の有効利用などに積極的に取り組んで参りました。その結果、2021年度の九州第一工場及び第二工場の二酸化炭素総排出量は、2020年比約50%まで削減することができました。

今後も、更なる省エネ対策、熱エネルギーの回収再利用、廃棄物活用・減容化、使用水の削減など、SDGsへの対応、サステナビリティ経営に継続的に努めてまいります。

事業活動とサステナビリティの調和



太陽光発電システム導入による脱炭素化の推進

当社は、脱炭素化に積極的に取り組み、その一環として2022年5月1日より新たに、自家消費型太陽光発電システム（オンサイトPPA）による再生可能エネルギー電気の使用を開始いたしました。本システムでは限られた設置スペースを有効活用するため、工場の屋根に加え、カーポート型の太陽光発電システムを導入いたしました。本事業は、環境省の「ソーラーカーポート等の新たな自家消費型太陽光導入支援事業に関する優良事例」に選出され、環境省主催のPPAに関するオンラインセミナーにおいて事例発表いたしました。

(<https://www.env.go.jp/content/000077203.pdf>)



九州第二工場



九州第一工場

サステナビリティ取組事例

LNG気化器の空温式への変更
及び冷気の室内冷房への有効活用



香味オイル製造時の野菜残渣を回収
再利用し、粉末調味料として製品化



蒸気ドレン、ボイラー排ガス等から
熱エネルギーを回収し再利用



ARIAKE JAPAN CO.,LTD.

32

アリアケグループ「世界7極体制」



ARIAKE JAPAN CO.,LTD.

33

- 本資料は、会社内容をご理解いただくための資料であり、投資勧誘を目的とするものではありません。
- 本資料に記載されている業績予想（計画）及び、将来の予測につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものです。これには為替や金利、国際情勢、市場動向や経済状況、競争環境、生産能力、将来における売上、収益性、設備投資、その他の財務指標の状況、法的、政治的、または規制上の状況、現在問題となっているCOVID-19をはじめとする疫病や健康問題の影響など、さまざまな不確定要素が内在しており、実際の業績は異なる場合があります。当社はこうした情報の正確性または完全性を保証しません。

第45期（2022年4月1日から2023年3月31日まで）
第2四半期 決算のポイント（単体）

2022年11月10日

（単位：百万円）

主要資産・負債等

総資産

	当第2四半期末①	前第2四半期末②	(①-②)	2022年3月期③	(①-③)
総資産合計	108,191	104,915	3,276	107,344	847

流動資産

	当第2四半期末①	前第2四半期末②	(①-②)	2022年3月期③	(①-③)
流動資産合計	65,040	68,340	-3,299	67,059	-2,019
現金及び預金	47,229	46,824	405	49,541	-2,311
棚卸資産	8,194	6,524	1,670	6,828	1,365
受取手形・売掛金	8,072	7,655	417	7,591	480

有形固定資産

	当第2四半期末①	前第2四半期末②	(①-②)	2022年3月期③	(①-③)
有形固定資産合計	11,065	11,243	-178	11,098	-33
償却資産	6,880	7,111	-231	6,990	-110
土地	4,046	4,046	0	4,046	0
建設仮勘定	138	85	53	61	77

投資等

	当第2四半期末①	前第2四半期末②	(①-②)	2022年3月期③	(①-③)
投資等合計	32,036	25,288	6,748	29,130	2,906
投資有価証券	13,305	10,446	2,859	11,950	1,355
関係会社株式	12,051	12,051	0	12,051	0
関係会社貸付金	3,815	1,502	2,313	3,623	192
子会社出資金	2,452	691	1,761	1,089	1,363
その他	411	598	-187	416	-5

資本勘定（株主資本）

	当第2四半期末①	前第2四半期末②	(①-②)	2022年3月期③	(①-③)
純資産合計	97,735	95,103	2,632	97,144	591
資本金	7,095	7,095	0	7,095	0
資本剰余金	7,958	7,958	0	7,957	1
利益剰余金	79,414	77,027	2,387	79,419	-5
自己株式等	-2,041	-2,039	-2	-2,040	-1
評価・換算差額	5,309	5,062	247	4,712	597

損益計算書関係

品別売上高

	当第2四半期	前第2四半期	増減	対前年比
売上高	19,838	19,299	539	102.8%
液体スープ	1,551	1,432	119	108.3%
液体調味料	15,717	15,342	375	102.4%
粉体調味料	1,722	1,704	18	101.1%
その他	847	821	26	103.2%

販売費及び一般管理費

	当第2四半期	前第2四半期	増減
販売費及び一般管理費	2,875	2,824	51
(%)	14.49%	14.63%	
販売費	1,742	1,692	50
労務費	515	528	△13
固定費	442	433	9
技術開発費	174	171	3

営業利益

	当第2四半期	前第2四半期	増減
営業利益	2,725	3,724	△999
対売上高比(%)	13.74%	19.30%	

営業外損益

	当第2四半期	前第2四半期	増減
営業外損益	737	492	245
営業外収益	738	497	241
配当金	432	344	88
家賃収入	15	15	0
為替差益	250	44	206
デリバティブ評価益	0	0	0
受取利息	11	11	0
その他	27	83	△56
営業外費用	0	5	△5
為替差損	0	0	0
その他	0	5	△5

設備投資・減価償却費

	設備投資					減価償却費			
	単体					連結	単体		連結
	単体合計	第1工場	第2工場	バックセンター	その他		単体	連結	
第40期（2018年3月）	472	35	364	72	1	2,650	1,052	1,968	
第41期（2019年3月）	808	164	319	35	291	3,080	993	1,898	
第42期（2020年3月）	639	54	557	27	1	1,616	964	1,597	
第43期（2021年3月）	1,238	755	463	19	1	1,846	911	1,505	
第44期（2022年3月）	744	117	549	66	12	2,118	968	1,737	
第45期第2四半期（2022年9月）	418	63	317	36	0	1,673	470	894	

人員

（単位：人）

	当第2四半期	前第2四半期
男	535	516
女	132	118
計	667	634
臨時（外数）アルバイトを含む	256	269

関係会社業績〔連結調整前〕

		売上高		経常利益		当期利益		設備投資		減価償却費	
		当第2四半期	前第2四半期	当第2四半期	前第2四半期	当第2四半期	前第2四半期	当第2四半期	前第2四半期	当第2四半期	前第2四半期
青島有明食品有限公司	(換算レート)	(@20.38)	(@17.11)								
	千元	138,533	157,849	32,278	36,875	24,208	27,656	1,013	2,043	4,649	4,631
	百万円	2,823	2,701	658	631	493	473	21	35	95	79
台湾有明食品股份有限公司	(換算レート)	(@4.60)	(@3.96)								
	千元	313,343	287,635	83,613	73,879	65,179	57,124	5,780	3,021	17,042	19,144
	百万円	1,441	1,139	385	293	300	226	27	12	78	76
F.P. Natural Ingredients SAS	(換算レート)	(@142.67)	(@131.58)								
	千ユーロ	6,209	5,821	593	621	593	621	2,205	774	398	395
	百万円	886	766	85	82	85	82	315	102	57	52
ARIAKE EUROPE NV	(換算レート)	(@142.67)	(@131.58)								
	千ユーロ	8,828	7,112	2,086	2,897	2,097	2,907	6,121	1,245	977	899
	百万円	1,260	936	298	381	299	383	873	164	139	118
Henningsen Nederland BV	(換算レート)	(@142.67)	(@131.58)								
	千ユーロ	10,208	9,536	2,684	2,905	2,013	2,226	76	175	164	128
	百万円	1,456	1,255	383	382	287	293	11	23	23	17
PT. Ariake Europe Indonesia	(換算レート)	(@0.0092)	(@0.0077)								
	百万ルピア	38,940	25,361	7,460	1,882	7,460	1,882	1	1	3	4
	百万円	358	195	69	14	69	14	10	5	31	29